

## 今の私にできること

石川県立金沢桜丘高等学校 二年 松永 沙季

最近、私は学校に行くのが苦痛である。なぜなら、勉強するのが嫌いだからだ。毎日の授業は難しくついていけないので楽しくないし、予習や宿題がすごくたくさんある。面倒くさくて仕方がない。しかし、私の考えと勉強に取り組む姿勢は変わった。このエッセイを書くにあたり、いろいろなことを調べ、たくさんのこととがわかったからだ。

世界には勉強したくてもできない子どもがたくさんいる。その理由は、家族のために働かなくてはならなくて学校に行く時間がなかったり、勉強する環境が整っ

ていない、などさまざまである。

ギニアに、ある女の子がいる。その女の子は自宅から九キロメートル離れた学校に三時間以上かけて行くのだ。その道は決して平坦ではなく、岩があつたり滑りやすかつたりする。そんな悪い環境にいるにもかかわらず、ずっと一生懸命に勉強してきた。彼女は、よい教育を受けることが大きな課題であることを、しっかり理解している。けれども、教育がより広い世界への扉を開くとも信じ、一生懸命勉強しているのである。

そんな彼女の友達は、家族が彼女の助けを必要としていたために、学校へなかなか行くことができなかった。また、戦争や紛争の影響で学校に行けなかったり、建物そのものがなかったりする。世界にはそのような子どもがたくさんいるのだ。それに比べて私たちはどうだろう。自分が行きたい学校を選ぶことができる。学校へは電車やバスで行くことができる。わからないことがあれば、先生に聞くことができるし、図書館に行けばたくさんの本から調べることができる。インターネットを使って調べることができるのだ。そんな恵まれた環境にいるにもかかわらず「学校へ行くのが面倒くさい」、「勉強なんてしたくない」などとすぐ口にしたりする。自ら学校へ行くのをやめてしまう人もいるのだ。

今、考えてみれば「勉強が好きではないから学校へ行きたくない」という悩みは、なんてぜいたくなのだらうと思う。そのような子どもたちが大勢いることを知り、私の悩みはなんてちつぽけなのだろうと思ひ、自分が情けなくなつた。そんなふうにしてゐる時間があるのなら、そのような子どもたちのぶんまでたくさん勉強し、たくさんのことを学ばなければならぬと思つた。そして、その学んだことを彼らのために役立てたいと思つた。たとえば、将来しつかり勉強して仕事につき、働いて稼いだお金の一部を、勉強する環境が整つていない地域に学校を建てるために使う。すぐ立派なことだと思ひ、自分もできればいいなあとと思う。

そういつた形で役に立つのもいいと思う。しかし私は、実際に現地に行つて子どもたちと直接関わりたいと思う。そして、さまざまなことを教えてあげたい。それによつて、少しでも多くの子どもたちの未来への可能性を広げてあげたい。

それを実際に実行するのはすごく難しいことだと思ひ。もつと現地のことを知らなければいけないし、言葉だつて覚えなければいけない。もつともつと勉強しなければいけないことがたくさんある。だけど、人の役に立てるのだと思えば頑張れるし、やらなければならぬと思ひ。

今の私にできることは、ほんの少ないお金でも募金に協力すること。私一人にできることなんてたかが知れているかもしれないが、やらないよりはやったほうがいい。ほんのわずかでも力になればいいと思う。そして、一番しなければいけないことは将来のために一生懸命勉強に取り組むことだ。勉強することこそが、今の私にできる精一杯の国際貢献なのだ。

